

4 令和5年度 学校自己評価・各分掌における評価 評価基準:A十分に達成できる状況 Bおおむね達成できる状況 C達成には努力を要する状況

部名	令和5年度重点目標	令和5年度評価項目(評価基準)	中間評価	中間での見直し・改善点	最終評価	振り返り・次年度への課題
教務	生徒が希望する進路に応じた選択科目群の編成 令和5年度入学生の新教育課程に基づいた群の編成	・生徒の希望する進路を意図した教育課程や選択科目群の編成表を作成する。 ・令和5年度入学生の教育課程において、可能な限り生徒が希望する履修計画ができるように、群編成を行う。	A	生徒の興味関心や希望進路に応じて、可能な限り希望に添える群編成・講座設定をすることができた。希望者が極端に少ない場合は、各生徒と面談をし、希望進路に必要な場合は開講とした。そうでない場合は、説明を十分にし、生徒の理解を得た上で他科目へ変更するよう指導し、丁寧な対応ができた。	A	次年度から全学年が新教育課程に基づいた科目を履修することになるため、群編成や時間割作成において、より時間をかけて作業を行った。次年度からも、生徒の希望進路や興味関心に応じたカリキュラムを提供できるように、各教科とも協議して検討していきたい。
	特色ある教育活動・学校行事の実践および広報	・学校の教育活動や情報、学校行事を生徒や保護者の皆さんに通知案内・周知する。保護者アンケート質問8,13の回答「わからない」を10%に減らすのを目標とする。(R4年度は26.4%,29.1%) ・学校評価やアンケートでの評価や具体的な意見を参考にPDCAを実践する。特にアンケート回収率を80%以上を目指す。(R4生66%,教員71%,保護者48%) ・受検を検討している中学生や保護者の皆さんに学校の教育方針や学校の様子伝える。	C	アンケートは12月に実施予定であり、評価できないでCとした。回収率の改善のために、生徒・教員にはMicrosoft Teamsでの回答を呼びかけたり、回答の時間を設けたりする。保護者へはミクサメールでFormsアンケートのURLを送信し、より回答しやすい方法で実施する。	B	回収率の改善のために、保護者へはミクサメールでFormsアンケートのURLを2回送信し、2学期末懇談時にクラス担任が依頼した結果、回収率が昨年度50%から74%に向上した。 生徒・教員にはMicrosoft Teamsでの回答を呼びかけたが、生徒の回答率は54%(昨年度68%)、教員の回答率は67%(昨年度と同率)であった。次年度は、生徒に回答の時間をのりするSHR等で設けることで、さらに回収率を向上させたい。 次年度への課題として、保護者が回答しやすい質問項目に修正したり、学校での取組をもっと発信したりすることが、考えられる。
教育研究	1人1台端末の活用状況の向上	1学期の活用状況を基準とし、2・3学期の活用状況を向上させる。	B	1学期の活用状況は1.7%と低い。しかし、実際には多くの先生方が授業で活用いただいているように思う。現時点で活用状況の数値がないため比較ができないが、2学期の数値向上に期待したい。	B	タブレットの活用状況は1学期は1.7%であったが、2学期は2.4%、3学期は10.3%と少しずつ上昇している。また、数値には現れていない(入力がない)が、授業や課題配信など活用状況はもって進んでいると感じている。しかし、それに伴い数値の件数も増加しているように思う。利用が進めば、一定数発生するのは仕方ないと思われる。
	進路や適性に合った科目選択の指導	・進路や適性に合った選択ができるよう、ガイダンス等を充実させる。	A	今年度も系列科目選択保護者説明会を実施した。保護者の方々に直接説明する機会を有意義で、生徒の将来の進路に向けた科目の選択につながったように思う。また、参加できなかった保護者の方に資料配布を行い、丁寧な説明を行った。1年次担任の先生方への説明会は、本年度から科目選択・系列選択に共通の認識を取り組むことができた。	A	コロナ禍前と同様に系列選択保護者説明会を行うことができた。直接説明する、質問に対して答えることで、系列選択、科目選択もより自分のこととして考えることができたように感じる。また、説明資料も充実したのとなり、新課程についても十分に説明し、理解を得たように思う。生徒・保護者、新転入の先生方へ、本校のシステムを説明できたように感じる。
総務	教育活動の円滑化	・各行事毎の記録写真を確実に残す。 ・防災訓練における避難時間の短縮をはかる。 ・机、椅子、ロッカー、清掃用具を適正に管理する。	A	第1回目の防災訓練は、自衛隊の方を講師にお迎えし、予定通り実施できた。机・椅子、清掃用具は適正に管理できている。	A	予定通り2回目の防災訓練と防災講話を行い、防災意識を高めることができた。また、今後も机・椅子、清掃用具、防災用品の管理を適切に行う。
	保護者や同窓生との連携強化	・行事や講演会への参加を通して、PTA活動の充実をはかる。 ・同窓会役員会出席生徒を3年生から2名決定する。 ・ホームページの充実をはかる。	B	今年度はコロナ感染が落ち着いたため、各種講演会への参加も積極的に進んでいる。PTA総会もコロナ以前の形で行われた。また、飯高祭ではPTAバザーが実施できた。	B	今年度は、コロナ禍以前の形でのPTA総会や飯高祭でのPTAバザーを実施した。各種講演会や行事への積極的な参加を通して保護者との連携をはかることができた。また、次年度も引き続きホームページの充実を力を入れていく。
進路指導	進路意識の向上と適切な進路選択に向けた取組み(特に早めの就職指導)	・個別面談を実施する。 ・産社や探究の内容を踏まえ、学年団と連携する。 ・進路情報を提供する。	A	・3年学校推薦による就職希望者への指導はほぼ計画通りに実施した。	A	学校推薦による就職希望者は100%内定をいただいた。就職に関する計画は、予定通り実施できた。進学は推薦基準を改めたが、スムーズに進路決定ができた。上級学校と連絡を取り合い、進学希望者への情報提供を行った。職歴による就職やアルバイトを希望する生徒の情報は、担任の先生方との連絡を密に取っていく必要がある。欠席を安易に重ねないような啓発を続けていく必要がある。
	基礎学力の向上に向けた取組み	・学力テスト(校内実力テスト、校外テスト、漢字テスト等)を計画的に実施する。 ・生徒の学力情報を共有する。	B	・1年基礎力診断テストの導入で周知が遅れ気味になったことがあった。 ・テスト結果の周知や共有は以前よりスムーズにできていると思われる。	B	今年度は1年だけではあるが、客観的に学力を確認できるようになった。来年度からは全学年において、それをもとにどう生徒に対して働きかけていくかを教科や学年団を巻き込んでいきたい。
生徒指導	遅刻・欠席、服装違反の減少	・特に遅刻に注目し、年間1000件以下にする。 ・特に髪の色、加工している生徒の数を減少させる。	C	7月までの遅刻数は384件(昨年度376件)と、昨年度とほぼ横ばいである。昨年度の年間遅刻数は1458件であり、目標の1000件を超えるペースである。生徒・保護者に対する更なる注意喚起が必要である。	C	1月終了時点での遅刻数は、1082件となり、当初の目標を上回ってしまった。生徒・保護者に対する注意喚起をおこなう必要がある。本年度遅刻指導を増やしたが、目標の1000件を下回ることができなかった。髪型に関しては、一部の生徒で髪色、加工をしている者がいた。本人への指導、保護者への協力を続けていく必要がある。
	交通事故・違反の減少	・生徒の交通事故を年間10件以下にする。	B	現時点で6件の交通事故報告が上がっている。周知、啓発を継続して行っていく。	B	現時点で6件の交通事故報告が上がっている。周知、啓発を継続して行っていく。
	安心・安全な学校生活の確保	・学校生活アンケートをもとに、いじめ等気になる生徒へ対応する。	A	担任の先生方、各学年団長先生による迅速な対応で問題を把握、対処できている。	A	担任の先生方、各学年団長先生による迅速な対応で問題を把握、対処できている。
健康推進	新しい生活様式に対応した学校生活が衛生的で、体調との自己管理が可能な生活力ある毎日をおくれる生徒の育成	・生活指導や衛生管理、感染症対策等について指導を行う。 ・学校での健康診断結果から治療指導や予防指導を行う。 ・健康面の自己管理ができる生徒の育成に努める。	A	今年度の健康診断は生徒職員共に完了している。感染症対策は緩和されたが校内での指導は基本的に継続していきたい。	A	職員は人間ドック等の活用が多く各個人の意識も高いと考える。生徒の健康診断は本年度は予定通り実施終了している。今後も健康意識を高めていきたい。
	生徒の悩みに向き合い、未来に進むための能力向上への協力と指導	・学校職員やSC(スクールカウンセラー)等の面談を実施する。 ・S SW(スクールソーシャルワーカー)等の面談を実施する。 ・ケース会議など生徒へのサポート体制の検討立案を行う。 ・生活アンケートなど実態把握からの指導を行う。	B	アンケートの実施や聞き取りなどを今以上に力を入れ、生徒の把握を継続し個々にあった指導を継続していきたい。	A	生徒にあった指導や対応について課題や方向性など協議を繰り返し指導に努めた。指導内容については十分でないものではなかった場合もあったが、今後はいっしょに、継続的な指導を行ってきたい。
	安全で快適な学校環境整備と最適なシステム運用を検討し実施する	・校内巡回やアンケート調査を行う。 ・システムや活用や運用等の改善を行う。 ・感染予防対策の環境整備や立案、指導を行う。	B	施設改善やシステムの見直しなど課題は多いが取り組むことができることから取り組みより良い改善をしていきたい。	B	各部や関係各所からの聞き取りから改善点を提示していただきより良い改善を心がけたが納得をいただけるものではなかった。継続的な要望改善に努めていきたい。
六権・同和教育	人権・同和教育LHRの充実	・生徒自己評価アンケート結果より「積極的に取り組めたか」の項目のA+B評価、75%以上をめざす。	A	1学期LHRでは授業後のアンケートにおいて「積極的に取り組めたか」の項目に、約98%の生徒が「AもしくはB評価」と自己評価している。全ての生徒が積極的に授業に参加できるよう工夫したい。	A	2学期LHRでは授業後のアンケートにおいて「積極的に取り組めたか」の項目に、約97%の生徒が「AもしくはB評価」と自己評価している。全ての生徒が積極的に授業に参加できるよう工夫したい。
	保護者啓発の推進	「ひまわり」人権通信等の感想・意見、学校自己評価保護者アンケートの結果から、保護者啓発の成果を分析し評価する。	A	「人権通信12号」を発行した。懇談時に級担任から保護者に「人権通信」と返信用の別紙を手渡したため、保護者からたくさんのご意見をお寄せいただいた。これらの意見を踏まえて、紙面を充実させたい。	A	「心の輪を広げる体験作文」で本校生徒が知事賞を受賞し、じげんフェスタで表彰された。「人権通信13号」を発行した。保護者の中には、ルーズリーフ等の紙に長文のご意見を寄せくださる熱心な方もいらっしゃった。これらの意見を踏まえて、紙面を充実させたい。
特別活動	生徒会行事の充実	・生徒会行事をしっかりと運営させる。 ・積極的な行動運営や企画をする。	A	4年ぶりに通常開催できた行事が多く、生徒たちにとっても充実した思い出に変わったと感じている。特に文化祭は満足しているが92%だった。後半も役員改選やクラスマッチ等があるので安全に気を付けながら運営していきたい。	A	4年ぶりに通常開催できた行事が多く、生徒たちにとっても充実した思い出に変わったと感じている。後半の役員改選やクラスマッチも滞りなく進められ、ようやく学校行事が元通りになったと安心している。しかし、これを機に補うべきものも、盛り上げていくべきものを来年度以降検討していく必要がある。
	部活動の活性化	・大会やコンクールに積極的に参加させる。 ・放課後の部活動指導に取り組む。 ・部活動入部率をあげる。	B	今年度は各種大会やコンクール、コンテストなどで成果をあげている。その反面、部員数が減っている現状は変わらず、本校として部活動のとりえ方を考え直さなければならない課題がある。	C	年々、部活動地域以降の動きもあり、部員の確保は非常に難しくなっている。少人数になっても活発に活動している部活もある中で、部活に入らず放課後、学校に残っている生徒も多いので、できる範囲の中で、部活動動員にこれからも力を注いでいきたい。
各学年団	生活規律の確立	・欠席、遅刻をなくさせる。(出席率98%以上) ・整理整頓を習慣づけさせる。	B	1学期の出席率は97.6%、遅刻はのべ74回。体調不良・家事都合等のやむを得ない理由以外の欠席・遅刻は限りなく0になるように、指導していきたい。また、机やロッカー内の整理ができていない者が少なからずおり、身の周りの整理整頓ができるように指導していきたい。	C	2学期までの出席率は96.2%、遅刻はのべ251。懲戒処分者は6名。3名が進路変更のため退学あるいは転学した。人間関係やメンタルの問題で休みがちな生徒や遅刻が増えた生徒が数名おり、出席率は目標を達成できなかった。整理整頓の習慣も、若干名困難な生徒がいる。来年度は移動教室も多く、他の生徒の席で授業を受けることがあるので、身の周りの整理整頓ができるように指導したい。
	活動意欲の向上	・部活動や生徒会活動、ボランティア活動に参加させる。	B	高校生活に慣れてきた頃ではあるが、すべてをきちんとする習慣を身につけていきたい。また、部活動や様々な活動にも積極的に活動していくよう指導していきたい。	C	入学当初は部活動に入部していたが、その後退部した者もあり、入部率は5割程度である。実質的に活動していない者も多数いる。入部していない者や退部した者には生活上の問題がみられることが多い。打ち込めることを見つけていきたい。
	学習意欲と進路意識の向上	・全員が授業中、積極的に挙手発言やグループワークができるようになり、欠点が学期ごと減っていく。 ・総合学科全員が、英検など何か資格取得か検定合格を実現し(最低でも漢検)、1月までに受検校(学部)や就職希望業種を決定する。 ・看護科は履修式を成功させ、臨地実習に休まず参加	C	中間時点では、まだ評価できない項目がほとんどである。真面目に頑張っている生徒は多く、引き続き達成に向けて努力を重ねよう、促していきたい。	B	積極的な挙手発言は難しいが、グループワークはかなり自分達で考えてできる。欠点数は不登校休みの者が増えたため大きく増えたが、ほぼ現状維持である。進路意識は以前よりは高まってきて、資格取得に向けて前向きに取り組む生徒が増えた。看護科は全員大変良く頑張った。
2年	生活規律の確立	・出席率99%以上、遅刻回数140以下(前年度281の半減)、皆勤賞40名以上(前年度26名)。	C	携帯電話使用違反が、1学期までで9回と、非常に目標達成が難しい状況になっている。出席率も96.3%で、学年当初から長期欠席状態である2名を除いても、99%以上の目標達成は難しい。遅刻回数は1学期末までで95回で、これも目標達成には難しいが、昨年度よりは改善されている。今後の数値の悪化が無いよう、声掛けをしていきたい。	C	携帯電話使用違反が11回。2回目の指導を受ける生徒も出てしまった。出席率は96.4%、長期欠席生徒を除いても96.5%。遅刻回数は2学期末まで229回。素直なよい生徒達だと思いが、生活規律の面ではまだまだ十分ではない。
	進路希望の実現	・進路決定率100%にする。	C	今後とも、生徒・保護者と連携を密にして努力していきたい。	C	就職・進学以前に、卒業を目標とする生徒も数名おり、進路決定率100%とはならなかった。ただ、本人・保護者とも納得済みである。4月から新しい場で、目標を持って頑張ってもらいたいと思いが強い。
3年	自己教育力の向上	・欠席のべ250日未満。遅刻のべ150回未満。	C	目標を1年次の欠席・遅刻数の約80%に設定したが目標を設定したが、すでに1学期末時点で欠席のべ378日、遅刻のべ210回と目標の数値を超えてしまった。来年度の就職・進学に向けて、今後厳しく指導していきたい。	C	高いとは言えない目標を設定したつもりだったが、大幅に目標の数値を超えてしまった。多くの先生方から、将来において欠席・遅刻が信頼を失うことになるという話や指導をいただいたが、一刻も早くその話が響いてほしい。
	看護職者をめざす者として常に自覚と責任を持って行動できる態度の育成	①健康の自己管理:出席率平均98%以上 ②家庭学習の習慣化:授業アンケート結果で「学習習慣による学習理解」の項目においてA評価が30%を超える ③節度ある言動・態度:学校評価アンケート結果(生徒)で「身だしなみ」(挨拶、時間を守る)の項目においてA評価が60%を超える	B	①健康の自己管理:平均出席率は2年生が99.9%と評価基準を下回った。進路に悩み長期欠席する生徒が複数いる影響が大きいと考える。 ②家庭学習の習慣化:1年生68.0%、2年生59.0%と昨年までの20%台と比較して、大きく改善した。 ③節度ある言動・態度:2学年共数えずったが、根拠なく化粧や髪型指導を行わなければならない生徒がいる。指導の効果が薄く、生徒や悩みを抱える生徒については、複数名でかわり、早い段階での対応に努める。	C	①平均出席率が1年生97.6%、2年生91.4%と評価基準を下回った。進路に悩み長期欠席する生徒の影響が大きいと考える。 ②授業アンケートの「家庭学習」の項目でA評価が1年生68.0%、2年生59.0%と昨年度までの20%台から大きく改善し、評価基準も上回った。課題に取り組む時間を増やしたことが影響していると思われる。 ③学校評価アンケート(生徒)の「身だしなみ」の項目で「よくあてはまる」42.9%(昨年度38.5%)、「挨拶、時間を守る」の項目で「よくあてはまる」51.0%(昨年度43.6%)と評価基準は下回ったが昨年度との比較ではやや改善している。個別指導の必要な生徒が増えている。早い段階から教育相談と連携し、進路実現に向けて指導していきたい。